



伊豆市

議会だより

No.1

発行：伊豆市議会 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606

2004.8.1発行



土肥海水浴場

目次

議長就任挨拶	2
市長施政方針	3
伊豆市予算を可決	4
定例会一般質問	5~13
委員会構成	14~15
常任委員会所管事務・施設調査の報告	16~17
議会傍聴記・編集後記	18

議長就任挨拶

伊豆市議会議長 石和信一



伊豆市誕生により市議会議長に選任され、誠に名誉であり、事の重大さに強く責任を感じているところです。どうか大勢の皆様のご支援とご協力を戴いて、任務をまっとういたす所存です。

各々の今期の議会は、将来の伊豆市議会の礎石となるために、全員で一生懸命頑張っているところです。

即ち、少しでも早くその合併効果が目に見えるように、行政当局と力を併せて、あらゆる事業を遂行することが義務と考えています。

四町とも独自の町政運営の積み重ねで成り立ってきた町であるので、す

べてに微妙にその差があり、それを一挙に埋めることは大変に難しい。しかし、それをしていかなないと制度が複数になり、統制がつかないことになるので最大公約数を求めなければなりません。

社会環境は常に動いているので、行政政策に先取りは大変に難しい事ではありますが、変革に乗り遅れないよう細心の注意が肝要と考えられます。即ち、最近よく耳にする言葉で地方分権とか、自己責任で自己決定など取り入れていけるような市政にしたいものであります。

そのためには、構造改革特区などで地域振興を図り、市の財政力に力をつけなければなりません。このような伊豆市を作り上げるのは、行政当局と議会の共同作業であらうと思われるので、一層の勉強をしたいものです。

臨時議会

伊豆市として最初の臨時議会を平成16年4月12日～16日の間、開会しました。

伊豆市議会会議規則の制定、議会事務局設置条例の制定、議会委員会条例の制定、議会報編集特別委員会の設置について審議し、可決しました。

第一回臨時議会選任

議長 石和 信一

副議長 大川 富也

田方地区消防組合

加藤 章・石倉 勇夫

西伊豆広域消防組合

鈴木 健市・高田 和正

田方地区交通災害共済組合

駿豆学園管理組合

石和 信一

伊豆市戸田村衛生施設組合

鍵山 堅一・高田 和正

鍵山 二・杉山 羌央

伊豆市農業委員会委員

(議会推薦四名)

修善寺 三須 重治

本柿木 菊地 元子

土肥 樽沢 有子

八幡 川口きよみ



市長 施政方針



第1回定例会第1日目において、大城市長の市政方針がありました。その中で6つの基本方針が提言されましたのでご紹介します。

● 創造力ある人づくり

放課後児童クラブの運営や小学校での英語教育事業、土肥小学校体育館建て替え、中伊豆地区の学校給食センター建て替え等を進めて参りたいと思っております。

● 誰もがいきいき暮らせるまちづくり

障害者の自立と社会参加を目指すための障害者支援、高齢者の介護支援拡充、住民の健康増進に努めるための予防対策、県のファルマバレー構想と整合性を持ったウエルネス産業の調査・研究等に重点を置き、温泉療養等と組み合わせ、健康づくりのシステム研究も推進して参ります。

● 住むにも訪れるにも

心地よい環境のまちづくり

広域ごみ焼却施設の建設促進、ゴミ減量化及びリサイクル施策を検討、新斎場建設の推進、さらには、西伊豆消防土肥支署の田方地区消防への統合に伴う整備。また、環境に配慮した風力発電の研究や、静岡県が薦めるエコタウン構想の研究を進め、最終的に廃棄物をゼロにするゼロ・エミッションの研究

究をめざして参ります。

● 地域の活力をいかしたまちづくり

商工観光関連産業の地域活性化対策として、地域ふれあいイベントの展開及び観光施設の整備を進めて参ります。農林業関係では、農業活性化のためグリーン・ツーリズムの促進、森林ボランティア事業の充実を図って参ります。

● 活力の源となる安全で

都市機能の充実したまちづくり

道路橋梁整備の促進、天城北道路事業に関連した、太平ハイフィナンターチェンジへのアクセス道路の整備促進等を図って参ります。

● 地域が主体のまちづくり

市の方向付けともなる総合計画及び国土利用計画の策定を押し進めて参ります。

厳しい行財政の中で、すべての面において極力無駄を省き、効率の良い予算執行をすることができると、職員ともども努力する所存でございます。

第二回臨時議会選任

助 役 児島 保次

収入役 石田 佑次

監査委員（識見者）

瓜生野 遠藤 常美

監査委員（議 員）

八 幡 磯 晴雄

固定資産評価審査委員

修善寺 鈴木 健範

土 肥 高橋 啓介

八 幡 山口 功

月ヶ瀬 植松 楯彦

教育委員

熊 坂 三島 平治

地藏堂 萩原 勝利

下白岩 室野 純司

小土肥 勝呂 昭洋

大平柿木 山田 裕子

選挙管理委員会委員

瓜生野 長倉伊豆枝

地藏堂 飯田 卓

湯ヶ島 篠原陽太郎

土 肥 登木口孝雄

選挙管理委員会補充員

大 沢 谷口房太郎

八 幡 川口 嘉明

大平柿木 鈴木 勇

八木沢 永岡 英章

平成十六年度

伊豆市予算を可決

一般会計予算総額百八十六億六千万円、十六年度は四町合併持ち寄りのため、巨額予算となりました。

第1回定例会を6月7日～29日の23日間の会期で、開催しました。

初日は市長の施政方針と市から提出された16年度一般会計予算1件、特別会計予算17件の議案説明を行い、各常任委員会に審議を付託しました。その他、伊豆市運動施設条例、昭和の森会館条例、丸山スポーツ公園条例、非常勤消防団員にかかる退職報償金の支給に関する条例、修善寺町農業集落家庭排水処理施設設置事業分担金徴収条例、天城温泉会館条例、特別会計条例の一部改正7件を審議し可決しました。

24、25日の2日間は一般質問を行い、21人の議員が市長・教育長の考えを質しました。

29日の最終日は委員会に付託された案件の報告があり、16年度予算について全て可決されました。

意見書を採択!

今定例会において次の意見書を採択し、国の関係機関に要望しました。

地方分権を確立するための真の三位一体改革の実現を求める意見書

住民が安全で安心して暮らせる行財政運営が実施できる改革の実現が、極めて重要であります。

地方分権の理念に基づいた真の改革となるよう、地方への財源保障を求め、要望しました。

「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の延長に関する意見書

東海地震による災害に備えて、「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の延長について、特段の配慮をされるよう強く要望しました。

自動車登録番号標に係る「伊豆」ナンバーの創設を求める意見書

地域の宣伝効果による観光振興を目指すなど、地域活性化を目的とした「伊豆」ナンバーが、早期実現されるよう要望しました。

一般質問

6月24日、25日の2日間にわたり、21人の議員から質問がありました。

幼稚園の教諭



木内 一郎
議員

質問

伊豆市の幼稚園6ヶ所。各園、臨時教諭を含めて4人では、臨時教諭でも担任を持たざるをえない状況にあります。幼児の教育は重要であります。臨時教諭であっても、担任をして苦勞されて

る方々の待遇は、正教諭に比べて大きな差があります。正教諭の数を増やすことは急務であります。

長弁 教育 教答

現在各幼稚園に1名ずつの臨時教諭がいます。臨時教諭といえども、与えられた責任や勤務時間は正教諭と何ら変わりありません。次年度以降、新規採用により、段階的に正規の教諭に切り替えていきたいと強く考えています。

ゴミ焼却場改築

木内 一郎 議員

質問

ゴミ焼却施設は耐用年数である15年を大幅に過ぎ、修繕費は毎年かさみ、焼却能力は低下している。焼却場の改築は急務である。2市3町で計画している広域焼却場の進み具合はどうか。また差し迫って必要度の高いところだけ改築は。また、伊豆市だけで改築するつもりはないか。

ゴミ焼却施設及び斎場建設については、五人の議員から質問がありました。

市長答弁は一括で掲載します。

ゴミ焼却施設の建設



飯田 正志
議員

質問

現在伊東市を中心として2市3町の広域で計画されていますが、我が伊豆市が一番せっば詰まった状況にあるわけで、一番余裕のある伊東市の現状と取り組み状況や、分別問題、補助金の有無など財政面からの負担を考えた時、どのような方法があるか。

質問



遠藤 正寿
議員

広域ゴミ施設・斎場建設

①現在の駿豆南部広域ゴミ施設協議会の進捗状況。

衛生処理施設の整備計画



土屋 英隆
議員

質問 現在の施設は老朽化によって、処理能力が低下している。合併前より検討されている。伊東市と伊豆市及び田方郡北部3町による駿豆南部広域組合による進捗状況について。

中豆斎場の建設計画は

質問 現在の施設は、毎年修繕をしながら稼働をしており、更新の時期と思われる。旧土肥町と戸田村の共同施設の改修計画の見通し。合併前一部事務組合の新設計画の中での土地購入等合併により計画が変更された。現在の計画はどうなっているか。



広域ゴミ処理施設建設計画



小川 一弥
議員

質問 2市3町の広域ゴミ処理場の建設について、伊東市ではプラスチックゴミの分別回収が行われていないがどうするのか。全国の大規模ゴミ処理施設で事故が相次いでいる。あえて危険を犯さなくても、小規模施設でダイオキシン対策は可能であると実証されている。小規模施設の研究・検討をすべきでは。

長弁 2市3町で進めている広域焼却場は、建設完了目標が平成21年度末、組織は一部事務組合、目的は可燃ゴミ処理、焼却施設は溶融固化設備付き、建設第一候補地は伊東市宇佐美とするなどが協議されています。しかし、事務局である伊東市は、用地の取組み状況や経過報告等はなく、積極的な協議会の開催や建設推進などを強く要請しているところだ。

ゴミの焼却施設や最終処分場の更

なる安全性の確保やゴミ処理コストの削減等を目指すには、広域的な視点で取り組むことが国県の指導基本とされています。今のところは、2市3町の枠組みの中で、早期完成の努力をしたい。(定例会後7月14日、事務局から稼動時期が23年度まで先延ばしになることが報告されました)

焼却炉の国の建設補助基準は、広域処理圏域における位置付けがされ、十分なダイオキシン対策が講じられていることが必要であり、本体工事費の4分の1が国庫から補助されます。建設負担割合については案が提出されているが協議中です。

プラスチック類の分別は、田方地区は再資源化を図るため分別、伊東市は可燃ゴミ(助燃材)として処理しています。統一することが望ましいが、結論は出ていません。

斎場建設については、早期に、市の中心地に合併特例債を活用した新たな火葬場の建設をと考えています。具体的なスケジュール等の検討はしていませんが、できれば本年度に建設用地の選定や交渉、また基本計画の策定委託費の予算計上などを

考え、遅くとも平成20年度には供用の開始ができればと考えています。

特別養護老人ホーム建設計画



小出 逸治
議員

質問 現在中伊豆八幡地区に社会福祉法人団体が市に建設計画を提出しているようです。施設待機高齢者は180名を越えており、市民が希望している施設のひとつではないかと思われます。市長は施政方針演説で住民福祉の向上と安心の市づくりの推進を明言しておりますが、

長弁 介護老人福祉施設の整備ですが、各自治体が独自で決定するのではなく、国の「高齢者保健福祉推進十カ年戦略」を基本とし「第二次静岡県高齢者保健福祉計画」で調整を計っています。伊豆市としてはこの計画枠の中に、新たに1ヶ所を18年度整備として組み込んで頂いてあります。今後計画を踏まえ、各方面のご意

見を伺い、整備に向け努力したい。

「ファルマバレー事業 推進協議会設置について」

質問 県のファルマバレー構
想（富士山麓先端健康産業
集積構想）に合わせて、豊富な資源
を最大限に活用し、温泉と自然環境
を生かしたウエルネス（心も体も健
康で社会的にも幸福な状態にあるこ
と）事業と政官業により推進協議会
を設置してアイデアを創出して
いただき県に申請できるように努力して
いただきたいと思います。

長弁 県の「ウエルネスとまち
づくり」に着目し、16年度事
業として県補助事業「魅力ある地域
づくり推進事業」への補助要望を
行っています。官民一体となった伊
豆市ウエルネス産業検討会議を組織
し、立ち上げの準備を進めています。

「構造改革特区申請について」

質問 地方活性化対策には国の
推奨する特区が最適な手段

ではないかと思えます。伊豆市にな
り、豊富な資源を活用し、選択肢を広
げて検討してみてはいかがでしょう
か。ウエルネス事業と構造改革特区
と一体に考え、議論していただき、申
請に向けて努力すべきと思いますが。

長弁 現在、ウォーキング、水中
運動を使った生活習慣病予防
事業や、水中運動による高齢者の転倒骨
折予防事業などの取り組みを始めてお
り、「伊豆市ウエルネス産業検討会議」と
の連携により全市的に広げたいと考え
ます。この動きの中で規制緩和が必要
となる場合は、特区申請に提案しますが、
現在のところ、案件はございません。

市長の施政方針を問う



森野 文夫
議員

質問 市長の施政方針『創造力
ある人づくり』について

長弁 豊かな心を育み、新たな
文化・芸術や地域の産業を
創り出すことができる人、自ら考え、

行動し、地域を担っていきける人が新
市の現在、将来にわたって必要です。
そのために学習環境を整備したいと
考えます。

長弁 「確かな学力」と「豊かな
心」を育み、「信頼される学
校づくり」を進めることこそが、子
供たち一人ひとりに新世紀を生き抜
く力を育む上で極めて大切であり、
教育改革の大きな柱であると考えま
すし、そうした教育活動の中から創
造力ある人間も生まれてくるように
考えています。「新しい知力」の育成
や「かかわりの力」の育成に取り組
み、各学校とも特色ある学校づくりに
努めています。

質問 「学校施設の改善、学校体育
館の建て替え計画について」

長弁 老朽化した校舎や体育館
の補修・改修を推進します。

また、安全な学校給食を推進するた
め、給食施設の改善に努めます。災
害時における市民の避難場所として
の重要な役割もありますので、耐震
診断、耐力度調査の状況を勘案しな

がら今後の建て替え計画を立てて参
ります。本年度は土肥小体育館の建
設を予定しています。

海の玄関口整備推進



鍵山 二
議員

質問 恵まれた自然の海に海の
玄関口、そして海の駅構想
を考え、観光産業の情報発信の場と
して検討して欲しい。

また、港湾、地震津波対策も地域
住民の願望ですが、さらに、海のス
ポーツ基地として、活用をどのよう
に考えているか。

長弁 海への出入り口である土
肥港整備の必要性は理解し
ていますが、どのように整備を進め
るかは市民の方々の意見も交え、幅
広く検討していく必要があると考え
ます。市民生活の基盤整備も不十分
で、地域間格差の是正も必要であり、
厳しい財政状況等を勘案した上で方
針を定めていきたい。

伊豆市の観光



小森 泰信
議員

質問 この地域の観光は、産業の上からも重要だと考えられます。市長の施政方針からは地域の産業の発展に関して、その方向性や熱意が感じられません。伊豆市の観光をどのように考えるのか。また、虹の郷は、伊豆半島の観光振興からも重要な拠点の一つととらえるが。

長弁 市答 観光は伊豆市にとって重要であり、観光に元気がないと、伊豆市全体が元気にならないと考えます。それぞれが知恵を出し合い、汗をかくことが必要です。豊富な資源をいかに魅力を増して、独自性を出していくかが必要であり、色んな施設や豊富な資源を活用したウエルネスと観光の協働も今後進めていきたい。農林水産業との連携も大事であります。

虹の郷については伊豆の重要な拠点の一つと考えており、入場者が減

少しているが努力していきたい。

暫定予算後の予算と市政運営



大川 宏
議員

質問 伊豆市一般会計実質ベース174億円強、人口のほぼ同じ函南町は131億円弱です。44億円も多いのは異常であり、「費用対効果」を考えると不真面目であります。少子高齢化で収入は先細り、福祉等の行政需要は益々増大します。最小の予算で、最大の市民サービスが発揮できる姿勢を示して欲しい。

長弁 市答 同規模の団体と比較して、も多い予算と認識しており、今年度に限った予算と考えています。今後、今まで以上に創意と工夫をこらした財政運営が必要であり、平成17年度予算の編成に向け、取り組み方針でおります。

市政の課題について具体的な検討をし、未調整課題について早急に一元化を図り、市民の視点にたった事業やサービスの推進に努めます。

「人員削減計画の具体策を」

質問

近隣地函南町の人口3万3,884名、当市3万7,869名に対し職員数277名、当市519名であり、239名も多い。そこで、職員の適材適所の配置転換と、人員削減計画はどのように考えるか。

長弁 市答

函南町との比較は人口比だけでなく、行政面積や人口ピラミッドも比較してほしい。人口は同じくらいでも、高齢化率が高くなるとそれにかかわる職員等も多くなります。

面積も約6倍の広さがあり、土・山・林業等の行政事務も増大します。これらのことを踏まえて、10年間で110名の減員計画を作成しました。

国民健康保険の財政

飯田 正志 議員

質問

現在全国的に、少子高齢化の影響で各年金や各種保険事業に財政的見通しが立たなくなっています。ご多分に漏れず、

我が伊豆市においても国民健康保険の財政は、明日をも知れぬ状態になっていると言われていますが、この建て直しについてどのような方策を用いていけるのか。

長弁 市答

医療費抑制については、健康増進疾病予防事業を継続推進していく事が重要であると考えます。

財源確保には、国保税収の確保、法定繰入金、財政上の許容範囲内の一般会計からの繰入金等を充てさせていただきます。

児童館の設置



室野 英子
議員

質問

伊豆市の教育行政は人づくりを掲げている。少子高齢化により子供や家庭を取り巻く社会環境が変化し、子供の心の闇を見えるような犯罪が次々起きています。インターネット等の世界に負けない体験のできる健全な遊びの場を与え、

心を健康に育み、地域に根ざした子育て支援の拠点となる児童館を設置する考えは。

長弁 市答 放課後児童クラブや子育て支援のための事業、幼児や母親同士の交流の場の提供など、さまざまな施策を展開しております。

児童館については、次世代育成支援行動計画や地域福祉計画の策定の中で、皆様の意見を聞きながら検討させていただきたい。

「子育て支援の今後」

質問 出生率が1・29にまで低下した。将来を見据えた市の総合計画の中で、子育てのしやすい町であるために、どのような方針を具体的に立てられるのか。

平成16年度、17年度に策定予定の、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画そして総合計画に市民の意見を取り入れ、子供たちが健康に育ち、子供を産み育てることのしやすい市になるように努力してまいる所存です。

将来自立し得る自治体を 目指すには



大川 孝
議員

質問 これまで一定の行政水準を維持できたのは、国の財政支援が行き届いていたからだと思えますが、これからは三位一体を始め、国の支援が十分に期待できません。しっかりと目標と設計が必要だと思います。

長弁 市答 自立し得る自治体とは、「民への改革」の推進とも合致するものであろうかと思われます。民間資金等の活用事業に見られるPFI（*注1）の導入や、民間企業における経営理念、手法、成功例などを公共部門に適用し、そのマネジメント能力を高め、効率化活性化を図るというNPM（*注2）の考え方を取り入れていく必要があると確信します。

そのため、十分な職員教育が必要となります。

「二十一世紀は環境の時代、 その布石は」

質問 市長の施政方針に、環境のまちづくりの目標が掲げられました。これら問題はスピードを上げて取り組む必要があると思います。今後は、地球白書でも警鐘している二酸化炭素対策として、再生可能なクリーンなエネルギー風力発電の研究を本格的に立ち上げることは、京都議定書にも貢献することとで大事なことと思えます。

長弁 市答 市環境保全条例に基づき、二酸化炭素等の削減や、分別収集等によるゴミの減量化・資源化、環境教育等の諸施策を推進します。今後、市環境保全審議会を設置し、諸施策の研究・実施に取り組みます。当面は広域ゴミ焼却施設の建設促進、斎場建設の推進、ゴミ減量化及びリサイクル施策の検討等を積極的に進めます。

広域合併と庁舎建設



三須 重治
議員

質問 将来、再合併があると庁舎建設は大きな無駄づくりとなります。幸い我が市には旧中伊豆町役場があり、本庁とも近く、スペースも十分です。光ファイバーも布設され、目指す電子自治体要件もそろいました。600万円の調査費を計上してありますが、まずは2庁舎を活用する研究を優先すべきと考えますが。

長弁 市答 今回の予算措置は、具体的な計画調査費ではなく、新築・改造を含め、現在存在する庁舎の有効利用を検討していきたいと思えます。また、東部健康保健センター（修善寺保健所）の動向も今後調査していきたいと思えます。

「行財政改革」

質問 合併により住民も特別職や議員の数が減った程度の改革では、満足も納得もありません。経費削減の政策を具体的に提示していただき、

改革姿勢を住民に示していただきたい。

長弁 特別職、一般職員及び議員や各委員の減少による人件費の節約は、合併による最も効果の著しいものであり、市民の一番注目するところであると思います。

本年度の予算執行については、事業等の実施の段階で、精査し、効果を見極めて執行するつもりです。施設管理については運営方法を見直し、各種団体などへの補助金の見直しなども考えていかなければなりません。

「行政組織の改善」

質問 実務の利便性や機能性よりも、4町の均衡に配慮しすぎた組織の編成には大いに疑問を感じていますが、各部署に改善点が見えてきたと感じます。効率の良い行政を望みます。

また、総務部長が空席になっていますが、早期に改善を。

長弁 組織については、思っていた事と現状とは多少食い違いが見えてきたのは事実です。

状況を見ながら徐々に職員の異動などで改善すべきところは改善し、効率の良い行政運営をしていきたい。総務部長の空席については、業務が大幅に支障をきたしているか調査し、検討したい。

「早期合併のメリットを生かす」

質問 合併特例債を有効利用し、快適なまちづくりをする。これも合併の大切な目的です。早期合併のメリットを生かすべく、初年度を有意義に生かしていただきたい。

合併特例債を有効利用し、快適なまちづくりをする。これも合併の大切な目的です。早期合併のメリットを生かすべく、初年度を有意義に生かしていただきたい。

長弁 合併を契機として、新たな時代ニーズに応じた行政の運営に向け、伊豆市総合計画では、効率の良い特例債の使い道を模索していきたい。

伊豆市の入札制度



加藤 章 議員

質問 「厳しい行財政の中で、すべての面において極力無駄を省き、効率の良い予算執行することができるよう職員共々努力する所存でございます。」と施政方針の最後で述べられました。伊豆市の入札制度についてどのように考えているのか。

効率的な入札制度とは単に価格が安いということではなく、より良質な工事が適正価格帯の中で適正な競争により実施されることであると考えます。重要なことは、発注者と受注者のモラルであります。いたずらに過当競争をおおることは、中小企業の多い伊豆市では市内業者の受注の機会を奪う可能性があります。今後より効率的な入札制度を目指し、調査研究を続けて行きたいと考えます。

学校の統廃合



磯 晴雄 議員

質問 少子高齢化が進展中の今、避けて通れない問題があり

ます。また、合併して多くのものが見直しの対象になっているのではないかと。大きな課題と思います。その中の一つに、学校の統廃合があるのではないのでしょうか。新市として今後どのような方針で対処していくのか。

長弁 学校の統廃合については、学校選択の自由化なども含め、地域住民の理解と合意を得ながら、何らかの方策を考えていかなければなりません。統廃合特別委員会の設置も検討したい。

「スポーツ少年団の支援」

質問 当伊豆市も各スポーツ少年団が多数存在しています。各団体も、地域の支援や父兄のボランティアに支えられ、立派に活動しています。今後、青少年の健全育成「子供は宝だよ」の見地から、諸施設の利用料が半減か、無料開放化ができないか。

当伊豆市も各スポーツ少年団が多数存在しています。各団体も、地域の支援や父兄のボランティアに支えられ、立派に活動しています。今後、青少年の健全育成「子供は宝だよ」の見地から、諸施設の利用料が半減か、無料開放化ができないか。

長弁 グランドの使用料は無料。市営のプールは維持費がかかるため、基本的に有料となっています。

ます。ただし天城温泉プールの使用団体については、小学生以上は1人年間30回の無料券を配布しています。当面は、状況が変わらない限り、現状のままでご理解いただきたい。

乳幼児医療費助成の対象年齢

小川 一弥 議員

質問

少子化対策・子育て支援として、乳幼児医療費の就学前までの助成を合併前から訴えてきたが、伊豆市になってこの制度の引き上げを実施する計画はないのか。

長弁 市答

静岡県では平成16年12月診療分から、市町村への補助基準を通院について、4歳未満を6歳以下の未就学児に年齢を引き上げる予定です。少子化対策の一環として、子育て家庭の経済的負担軽減のためにも、重要と考え、市としても県にあわせ対象年齢の引き上げをしたいと考えております。



中伊豆地区大東小学校・八岳小学校の存在意義



館林 義人 議員

質問

両校は交流授業など創意工夫し、小規模校の特色を生かしています。小学校は地区のシンボル、文化の中心で、大事な公共施設です。「小学校が近くて安心」「両校を残して欲しい」なくなると過疎になる」との住民の声です。地域の拠点として、両校の存在が児童の発達と地域づくりについてどう考えますか。

長弁 市答

統廃合により地域づくりが停滞するのではないかとの危惧のようですが、地域づくりの基本は、そこに学校が存在するか否かではなく、行政と地域とそこに住む方々とがどうかかわっていくかが大切であると考えます。

「防犯灯の整備増設と電気料」

質問

昨年中伊豆町長は「犯罪も多様化している。防犯灯は、住民を守る手段として有効。今後も防犯灯の設置に心掛ける。」と答弁。中伊豆では15年度分として、20灯設置した。伊豆市の他の3地区の現状と整備増設について伺いたい。また、電気料は区が負担している。市に移行して欲しいが、どう考えるか。

長弁 市答

防犯灯は、夜間通行する住民を守る手段として有効なものと考えます。犯罪を未然に防止するための生活環境を、整備していく必要はあると思います。防犯灯の電気料や修繕料については、今後も原則的に地元負担としてお願いします。

国保税、急激な負担増では？



木村 建一 議員

質問

国保税24万3,900円が市になったとたん、2万5,200円も上がる世帯が出る。合併協議会で決めた「急激な負担増

にならない」といえるか。

天城湯ヶ島時代、がん検診は18歳以上から受診ができたが、伊豆市になったら大腸がんなどは40歳からになった。「サービスは高い方」ではなかったのか。

長弁 市答

合併協では保険税率は合併時に統一する。ただし、「急激な負担増とならないように調整する。」となっていますが、医療費が高騰している現状からすると、国民健康保険財政そのものが破綻という結果とならないように調整されました。最終的に過度の負担増とならないよう税率を統一することで決定しました。

がん検診については、放射線の人体に与える影響が若年者ほど高いこと、また、がん発見率が極めて低い状況等を考慮し、年齢を決めさせていただきました。

農作物被害対策補助に「捕獲器」を

質問

いのししから農作物の被害を減らすために、田畑をネットなどで囲う『守りの支援』を続けながら、『減らす支援』へと根本的解

決に向けて、被害防止対策補助対象に「捕獲器」の追加を提案するが。

**長弁
市答**

有害鳥獣被害対策の補助金制度がありますが、これに対し捕獲器は、猟具であり、狩猟免許所有者で、登録を受けたものでなければできません。今後、農業者自身が狩猟免許を取得する傾向が増えるのではないかと想定されますので、銃器以外の猟具の各支所への配備が可能かどうか、要綱・要領の整備等について検討する段階と考えます。

**伊豆市の活性化を
どの様に進めるつもりか**



関 邦夫
議員

平和で安全の中に、安心して豊かに定住できる生活基盤をつくるには安全に対して、財政の許す限り対応すべきだと思いがいかに考えるか。

一時的な合併特例債活用でなく、これを利用して、安定した自主財源

確保を目指すと思うが具体的にどの様に進めるつもりか。

**長弁
市答**

安全のための防災基盤の整備の事業推進。天城北路の早期完成や幹線道路網の整備推進事業が優先と考えます。今後、伊豆市ウエルネス産業の振興計画の推進を図り、広域のまちづくりを進展させることによって、人口の流出にも歯止めをかけ、財政基盤の定着を図ると共に、安全で安心なまちづくりに大いに力を入れていきたいと思っています。

**「過疎指定地区の過疎債の
取り扱いについて」**

土肥地区では合併後も遅れを取りもどすため、7割

の交付金のつく過疎債が活用できる。打切りの前に、財政の硬直化で遅々として進まなかった事業又は着工出来なかったことに合併の力を期待できないか。

過疎対策事業債は、起債充当率が原則100%事業であ

り、後年度の元利償還の70%を交付税措置がなされる大変有利な事業であります。今後の過疎事業につきましては事業効果を検討し、積極的に事業推進していきたいと思えます。16年度事業につきましては旧土肥町での持ち寄り予算の範囲内で事業実施を予定しております。

森林への施策・構想は



杉本 喜作
議員

伊豆市建設計画で「豊かな自然環境の保全・活用安心して暮らせるまちづくりを目指す」としている。

国土保全・水資源の確保・環境の保全など、公益的機能を持つ森林も、安い木材の輸入・燃料革命による価格の低迷・労働者の不足・高齢化等で、森林の手入れ不足による荒廃が進んでいる。どのように対応するのか。

伊豆市では82%が森林であり、この恩恵を受けてい

ます。新しい森林・林業基本法が制定され、木材の生産を主体とした政策から森林の有する多面的機能の持続的発揮を図るための政策に転換されてきました。天城地区で行っている「300年の森づくり事業」などを推進することにより、林業の雇用が生まれる可能性も出てきます。近年森林ボランティア等の活動を積極的に支援することにより森づくりに対する意識が高まればと思います。

**分庁方式による上下水道部の
土肥支所への配置**



遠藤 勇
議員

分庁方式により、上下水道部を土肥支所に配置しているが、下水道も上水道も事業量の95%以上は中伊豆・天城・修善寺地区にある。事業量の少ない土肥支所に置くのは、運営管理上極めて不適当

であり、他の支所に変えるべきではないか。

長弁 分庁方式による不便さは確かにあると思います。今

市答 定例会の後、職員による委員会を立ち上げ、組織の改革を含め検討したい。来年4月1日までは大幅か小

「障害者の自立と社会参加を目指す対策」

質問 施政方針で「障害者の自立と社会参加を目指す」といつているが、具体的にはどのような対策を実施するつもりか。

長弁 相談業務を充実させ推進

市答 伊豆地区障害者生活支援事業や自立支援のため心身障害者、知的障害者等の授産施設の運営補助、社会参加のための手話通訳派遣、タクシー券助成事業や経済的負担軽減を目的に医療費補助、障害者・障害児手当ての支給等行っています。「伊豆市障害者計画」において「誰もが生きいき暮らせる町づくり」のための実現に向けて推進したい。

「高齢者の健康づくりのため介護予防センターに温泉療養施設を」

質問 高齢者の介護予防、健康づくりのシステムに「温泉療養」を据え、その受皿として城山活動支援センターに温泉療養のできる施設をつくり、市民の健康増進を図るべきだ。

長弁 城山活動支援センターの温泉施設の導入は建設時の期

市答 間的にも財政的にも困難であった。高齢者の介護予防や健康づくりに温泉を利用した方法で効果が出る事業と別の方法で温泉施設が必要であれば、伊豆市内の施設を有効活用していきます。

少子化対策、子育て支援の取り組み



古見 梅子
議員

質問 幼稚園の預かり保育、子育てで不安解消と虐待予防防

策、子育て支援センターの利用について、新市の取り組みは。

長弁 伊豆市幼稚園の預かり保育は、恒常的な保育ではな

市答 く、一時的な保育で、申請があれば午後5時まで預かります。今後、家庭との緊密な連携を図り、子供の発達や負担に配慮し、適切な指導体制など、園全体の体制づくりが必要となるので、研究を続けていきたい。

虐待予防対策については、4月から家庭児童相談室を設置し、虐待防止への対応に努めます。

子育てで不安解消では、各地区の保健センターを毎週開放し、育児の不安や母親同士の連携と友達作りを支援しています。また保育士による子育て相談の実施などを行っています。

「山林整備と地元木材の利用」

質問 竹林の整備、街道沿いの山林の景観整備について、

公共建築に地元木材の利用の予定は。

長弁 竹の活用は、竹炭等の利用推進を図っていますが、

竹林の対策までにはいたっていません。今後は、竹林の皆伐や本数調整の伐採等に対する支援制度を広げていくよう検討していきたい。所有者の自助努力だけでは難しい、伊豆市全体の森づくりということで、皆で考えていく必要があります。

現在は地元木材流通は少ないが、利用が増えることにより業として成り立つわけで、今後の施設整備には、これらを踏まえた計画作りをしていきたいと思っています。

*注1：PFI（プライベート・フィナンシング・イニシアチブ）

公共部門が担ってきた社会資本整備に民間事業者の資金や経営ノウハウを導入し、民間主導で効率的・効果的な社会資本整備を行う公共事業の手法

*注2：NPM（ニュー・パブリック・マネジメント）

公共部門に民間企業の経営管理手法を幅広く導入することで効率化や質的向上を図ろうとする行政運営理論。

●常任委員会とは

市の事務に関する調査および議案、陳情等の審査を行うため、条例で定め、常設する委員会のことです。幅広く、複雑で専門的になっていく事務を、合理的・能率的に審査するため、少数の議員で構成する委員会が設置されています。

4つの常任委員会があり、議員はそのいずれかに所属します。

委員会 構成



福祉文教委員会

健康福祉部及び教育委員会の所管に属する事項

	氏名	旧町名
委員長	遠藤 勇	修善寺
副委員長	鈴木 庄一	土肥
委員	鍵山 堅一	土肥
委員	室野 英子	修善寺
委員	落合 勝満	修善寺
委員	古見 梅子	天城湯ヶ島
委員	塩谷 尚司	中伊豆
委員	安藤 若夫	天城湯ヶ島
委員	木内 一郎	修善寺
委員	今井 眞奈武	天城湯ヶ島
委員	館林 義人	中伊豆
委員	土屋 英隆	中伊豆
委員	木村 建一	天城湯ヶ島
委員	鈴木 久之	土肥



総務委員会

総務部、市民環境部、会計課、議会事務局の所管に属する事項並びに他の常任委員会の所管に属さない事項

	氏名	旧町名
委員長	鈴木 健市	土肥
副委員長	三田 臣一	天城湯ヶ島
委員	加藤 章	修善寺
委員	酒井 勲一	修善寺
委員	石倉 勇夫	天城湯ヶ島
委員	小野 忠宏	修善寺
委員	大川 孝	天城湯ヶ島
委員	磯 晴雄	中伊豆
委員	飯田 正志	天城湯ヶ島
委員	田中 祐市	修善寺
委員	高田 和正	土肥
委員	石和 信一	中伊豆
委員	片山 晃男	中伊豆



土木水道委員会

土木部及び上下水道部の所管に属する事項

	氏名	旧町名
委員長	堀江 昭二	天城湯ヶ島
副委員長	内田 芳孝	中伊豆
委員	浅田 正孝	天城湯ヶ島
委員	森野 文夫	修善寺
委員	関 邦夫	土肥
委員	杉山 羌央	中伊豆
委員	杉本 喜作	中伊豆
委員	遠藤 甚義	天城湯ヶ島
委員	塩崎 浩治	土肥
委員	山田 規正	中伊豆
委員	土屋 悌二	修善寺
委員	三須 重治	修善寺
委員	遠藤 正寿	修善寺
委員	勝呂 宗夫	土肥

観光経済委員会



観光経済部、企業部及び農業委員会の所管に属する事項

	氏名	旧町名
委員長	日吉 才一	中伊豆
副委員長	飯田 宣夫	修善寺
委員	小川 一弥	修善寺
委員	佐藤 藤一郎	中伊豆
委員	小出 逸治	中伊豆
委員	小森 泰信	修善寺
委員	大川 勘太郎	土肥
委員	大川 宏	天城湯ヶ島
委員	三須 順吉	修善寺
委員	山下 一	中伊豆
委員	大川 富也	天城湯ヶ島
委員	浅田 靖夫	天城湯ヶ島
委員	鍵山 二	土肥
委員	勝呂 宗司	土肥



議会運営委員会

	氏名	旧町名
委員長	勝呂 宗夫	土肥
副委員長	浅田 靖夫	天城湯ヶ島
委員	加藤 章	修善寺
委員	大川 富也	天城湯ヶ島
委員	土屋 英隆	中伊豆
委員	堀江 昭二	天城湯ヶ島
委員	日吉 才一	中伊豆
委員	鈴木 健市	土肥
委員	遠藤 勇	修善寺

議会報編集特別委員会

	氏名	旧町名
委員長	山下 一	中伊豆
副委員長	関 邦夫	土肥
委員	酒井 勲一	修善寺
委員	古見 梅子	天城湯ヶ島
委員	小野 忠宏	修善寺
委員	大川 勘太郎	土肥
委員	杉本 喜作	中伊豆
委員	木村 建一	天城湯ヶ島

常任委員会所管事務・施設調査の報告

各常任委員会では、5月に所管事務及び施設調査を行いました。合併後初の調査であるため、旧町の事業の違いや初めて見る施設もあり有意義な調査となりました。

総務委員長 鈴木 健市

中豆斎場、清掃センター、本柿木最終処分場、土肥衛生プラント、土肥戸田衛生センターの5カ所を視察し意見交換を行いました。

各委員から、次のような意見が述べられました。

中豆斎場については、老朽化が進んでおり、新斎場を計画する必要がある。新斎場は限りなく市の中心部にして欲しいし、建設に当たっては、住民に十分PRし、理解を得て欲しい。

清掃センターについても、老朽化が目立つが、広域地区清掃センター構想もあり、関係自治体との調整を図り、具体化して欲しい。

本柿木最終処分場については、将来満杯時を予想し、対策を考えてお

く必要があると思う。

土肥し尿処理場については、公共下水道未加入者もあり、現施設が必要との説明がありました。

土肥戸田衛生センターについては、平成14年ダイオキシン対策のため、11億3,000万円にて改良済みであるとの説明があり、実働状況を視察いたしました。



伊豆市清掃センター

福祉文教委員長 遠藤 勇

市内の中学校4校、小学校12校、幼稚園6園、保育園8園、給食施設8施設、福祉施設4施設など、37施設。

委員14名、2班に分かれ2日間の日程で、西は土肥南小（八木沢）から東は大東小（徳永）まで、初めて訪れた所もいくつかありました。

本年度は土肥小体育館、中伊豆給食センターなどの建設が行われますが、今後、市内各教育・保育施設の建て替えなど、地震対策の上からも伊豆市の大きな課題と言えるでしょう。教育・保育の「よい環境づくり」を目指しての私たちの視察行でした



中豆授産所

が、教育・保育現場での声には児童数の減少という悩みも多く聴かれました。この少子化傾向にどう歯止めをかけるか、市当局も市民も、真剣に深刻に対処すべき問題だと痛感しました。

福祉施設では修善寺・加殿にある中豆授産所にも行きました。

障害者の社会参加のための施設としては、市内でここだけです。障害者の自立を目指す生活訓練の場も、働くための授産施設も、市が運営する自前のものがありません。

伊豆市のスローガン「人あったか」は、まず福祉対策を実際に進めることだと、手狭な授産施設を見てつくづくそう思いました。



貴僧坊の里

観光経済委員長 日吉 才一

所管事務調査では、各施設の経営状況。国民宿舎ふじみ荘と中伊豆荘の老朽化の問題。誘客対策や、施設の今後の管理運営。温泉療養とウエルネス事業。海や農業体験を通して、都市との交流事業であるグリーン・ツーリズムを観光と結びつけた事業。減反政策及び米の消費拡大。鳥獣被害対策などについて質疑がおこなわれました。

施設の視察では、道の駅天城越え



虹の郷

の「竹の子かあさんの店」を視察しました。スタッフ9名で、特産品の開発・販売をとおして利用者と生産者が直接触れ合い、対話から農林業や自然への関心を深め、心の交流が始まります。

恋人岬には毎年20万人以上の人が訪れ、恋人宣言登録者は55万人。その内、結婚の届出があったカップルは2万1,000余組を数え、夕日とともに特色のある施設とされています。

伊豆振興公社の自主事業として地域の活性化を目指し、虹の郷内「匠の村」で手すき和紙体験や、地域の小学校を対象に、こども自然探検隊など数多くの体験学習を行い、子供達の情操教育、健全育成が図られています。

萬城の滝キャンプ場周辺では、天城の自然を生かした公園整備が行われています。訪れる人が自然の中で四季の彩り、鳥のさえずり、手に触れることで癒され、心身ともにリフレッシュされると思います。

今後、地域の特徴を生かした観光振興を行政と地域の住民が協働で取り組み、活力ある伊豆市を創造したいと思えます。

土木水道委員長 堀江 昭二

上水道部門については、旧4町の水道料金の調整が急務ではありますが、即統一が困難な状況です。このため、当面は給水区域単位で使用料金を決定する以外に方法がありません。

重点改良としては、八幡(中伊豆)地区の配水池問題や、大平(修善寺)と佐野(天城湯ヶ島)地区の配水管接続問題等を、緊急課題として検討するなど、当局からの考えが示されました。

下水道部門ですが、流域下水道から合併処理浄化槽まで、整備手法は様々であり、新市の下水道審議会の場で検討してもらうなど示されました。

次に土木部門ですが、国の直轄事業である「天城北道路」が修善寺地区で始まったことが報告されました。これに伴い、道路関係事業はネットワーク網の整備として、一体化した考えが必要であり、すべてをアクセス道路としてとらえ、関連機関に強力に要望活動を行うことが、市の施策以上に必要なことを痛感しました。この間、上下水道施設や公共土木

災害復旧箇所、天城北道路の現地(月ヶ瀬)、土肥地区の市道、海の玄関口としての県営港湾海岸環境整備地区などの現地視察もあわせて行いました。



修善寺牧之郷地区、室久土歩道橋工事



小土肥海岸、県営港湾海岸環境整備

6月定例会 議会傍聴



6月定例会には50名の方々の傍聴がありました。皆さん熱心に質疑応答に聞き入っていました。これからも行政への関心をさらに深めていただきたいと思います。

今回傍聴された感想を投稿していただきましたのでご紹介いたします。

天城木材使用等、行政と共に実行することにより、伊豆の産物として利用価値が広がる等考えました。

子育て支援の就学保育についてはより身近な問題として聞くことができましたが、行政と住民との意見の食い違いを感じました。働く母の側に立つての福祉を切に願う思いです。

市になれば何事もよい方向になどと甘い考えで迎えた伊豆市ですが、市の財政の困難さを真剣に討議する状況を目にした時、一日も早い健全なる財政に建て直し、住民に温かい政治を進めてほしいと思います。

自然と共に生きる観光然り、住民との力を出し合つての市づくり、心より安心して住める地域づくり、福祉の充実と安心と言うことの実現に、議会と一致協力格段の英知をもって実践努力していただきますことを念願します。

今日一日の体験を大切にし、又機会があれば参加したいと思います。

議会傍聴を終わって

大川 幸子
市山（天城湯ヶ島）

伊豆市の市議会を傍聴するのは初めてのことで、期待と緊張を胸に議場に入りました。

質問事項は、それぞれ自分の地域の身近な問題が取り上げられての質疑応答に引き込まれ、感動することもできました。

伊豆半島に繁茂する竹林の件、

議会報編集委員



関 邦夫

木村 建一

酒井 勲一

大川 勸太郎

古見 梅子

小野 忠宏

山下 一

杉本 喜作

編集後記

4月に誕生した伊豆市も早4ヶ月を経過しました。合併を視野に入れていた他の市町村も、伊豆市の今後の成りゆきを注視していると思います。言うまでもなく、合併は目的ではなくあくまでも手段です。交付税の減額、税収の落ち込みなど、厳しい財政の中で合併効果をどう出すか、議員一同それぞれの分野で活動しております。

議会の内容を身近に知っていただくために、伊豆市議会報を発行し、市民の皆様のご理解を得、一緒に伊豆市の将来を考えていきたいと思えます。

年4回の発行を予定しています。市議会に対するご意見ご要望がございましたら、是非お寄せください。

（委員長 山下 一）
伊豆市議会事務局
（天城湯ヶ島支所内）
0558（85）2606